

数？越境力？これからの科学

第6回「チームサイエンスの科学」の日本での推進 × ハテナソン



2018年**11月2日(金) 13:30-17:30**

13:00開場

13:30-13:45 ご挨拶、趣旨説明

13:45-14:15 インプットトーク「チームサイエンスとは何か」

14:15-16:30 質問づくり

16:30-17:30 パネルディスカッション

於：**北海道大学 遠友学舎**「談話ラウンジ」

参加費：無料 定員：40名まで（お申込先着順）

[お申込みはこちらから](#)

お申込締切日：2018年**11月1日（木）**

主催：[任意団体チームサイエンスコモンズ \(TSC\)](#)

共催：NPO法人ハテナソン共創ラボ・北海道大学CoSTEP

お問い合わせ先：teamsciencecommons.office@gmail.com

●こんな人におすすめ：
学際研究に取り組まれている方、
共同研究のマネジメントに悩
んでいる方、研究推進支援全般
に興味がある方。とにかく
「ハテナソン」を体験して
みたい方。などなど…

開催趣旨

科学者がチームを組んで行う研究活動「チームサイエンス (TS)」はビッグサイエンスなどと並び、現在の科学文化の大きなトレンドとなっています。「チームサイエンスの科学 (Science of Team Science/ SciTS)」は、TSに対してどのような人材育成や研究支援等を行うのが適切か、実証的根拠に基づいて明らかにしようとする研究教育分野です。

「ハテナソン」は一人一人の発想を尊重し、かつ民主的な方法のもとで、「質問づくり」を行うワークショップです。これにより、特定のテーマの課題等を発見し言語化することができるようになります。

本企画で、SciTSとはどのような分野であるかを学びながら、ハテナソンに参加することで、日本でSciTSを進めていくための課題を一緒に考えてみませんか。



登壇者 (五十音順)



天野 麻穂 (あまの まほ) 司会

北海道大学CoSTEP研修科 / 北海道大学大学力強化推進本部URAステーション・URA / 北海道大学病院 臨床研究開発センター・研究開発コーディネーター

東京大学大学院修了、博士 (農学)。海外ポスドクや大学教員等を経て (当時の専門は生化学)、URA5年目。現在は、研究者同士のコミュニケーションや学際研究形成に興味をもち、職務と個人研究に取り組んでいる。TSCメンバー。



王 戈 (おう か) インプットトーク / パネリスト

科学技術振興機構 (JST) 社会技術研究開発センター (RISTEX) アソシエイト・フェロー / 任意団体チームサイエンスcommons (TSC) 代表

お茶の水女子大学博士後期課程退学 (社会心理学)。2014年JST入社、社会技術基礎調査を担当。それまで、大学で常勤・非常勤研究員歴9年、心理学非常勤講師歴4年、教育研究支援専門職員歴1年。2017年12月TSCを設立。



川本 思心 (かわもと ししん) パネルディスカッションファシリテーター

北海道大学 理学研究院 准教授 / 北海道大学CoSTEP 部門長

北大でミミズの再生研究で博士号を取得。その後、東工大で言語学・教育工学・哲学・工学等を専門とするメンバーのプロジェクトで科学技術コミュニケーション教育・研究に従事する。2013年より北海道大学CoSTEPに所属。



佐藤 賢一 (さとう けんいち) ハテナソンファシリテーター / パネリスト

京都産業大学 教授 / NPO法人ハテナソン共創ラボ 理事長 /

科学技術振興機構プログラムマネージャー育成・活躍推進プログラム第2期研修生

1991年から大学で発生生物学を専門とする教育・研究に従事している。2016年から質問をつくる学び場 (ハテナソン) の研究開発と実践に取り組んでいる。TSCメンバー。



三上 直之 (みかみ なおゆき) パネリスト

北海道大学准教授 (高等教育推進機構 高等教育研究部 / 大学院理学院科学コミュニケーション講座)

専門は環境社会学、科学技術社会論。設立当時のCoSTEPでサイエンス・カフェやコンセンサス会議などの「対話の場の創造」を担当した後、2008年から現職。無作為抽出型の市民パネルを始めとする「科学技術への市民参加」の手法と、それを生かした政策形成のあり方などを研究してきた。